

LAN iPurifier Pro の導入(16)(HP 収載)

－Spotify と Stage+－

1. 始めに

前報(14)に引き続き、Spotify のロスレス化に伴い、光アイソレーターLAN iPurifier Pro 導入の効果を Spotify のロスレス受信と Stage+で比較します。

2. LAN iPurifier Pro の試聴計画

Spotify と Stage+の配信音源の再生経路は、下記のとおりです。

ルーター→(OPT ISO BOX・LAN アキュライザー)→スイッチングハブ→(LAN iPurifier Pro*・LAN アキュライザー)→PC→(USB アキュライザー)→Brooklyn DAC+**→TruPhase

*：電源を iPower2 に交換

**：ABS-7777 からクロック入力

Spotify の配信音源は Spotify と Stage+双方で提供されている下記を選びました。

イザイ 無伴奏ヴァイオリンソナタ

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

バッハ ヴァイオリン協奏曲集

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

ジェフリー・カーン指揮ロスアンジェルス室内管弦楽団

3. LAN iPurifier Pro の試聴結果

Spotify のイザイの無伴奏ヴァイオリンソナタはこれまでの結果からロスレスでも問題なく再生できるサウンド設定 48KHzと外部クロック入力 48KHz の設定での再生で、ロスレスでも最高音質 320Kbps でも再生可能でした。

しかし、Stage+では高音質 320Kbps では再生可能でしたが、ロスレス FLAC では再生できません。サウンド設定を 44.1KHz にし外部クロック入力なしでも同様です。結果を下記の表にまとめました。

配信サイト	サウンド設定	外部クロック入力	配信サイト音質設定	再生
Spotify	48KHz	48KHz	最高音質 320Kbps	○
	48KHz	48KHz	ロスレス	○
STAGE+	48KHz	48KHz	高音質 320Kbps	○
	48KHz	48KHz	ロスレス FLAC	×
	44.1Kz	Internal	ロスレス FLAC	×

イザイの無伴奏ヴァイオリンソナタは、STAGE+を楽しむ(300)で報告したイツァーク・パールマンのモーツァルトや STAGE+を楽しむ(307) で報告したチャイコフスキーとストラヴィンスキーのバレエ音楽と同じく Dolby Atmos 対応で、これらは Dolby Atmos での再生はできませんが、ロスレスの再生は可能のはずです。

イザイの無伴奏ヴァイオリンソナタは、パッケージメディアでは CD の通常盤と UHQCD(MQA)盤が提供されています。

Stage+のロスレス FLAC では再生できなかったのは、あるいは UHQCD(MQA)のフォーマットの配信であり、受けの DAC 側の Booklyn DAC+では MQA 再生を ENABLE に設定してはいるものの、PC の STAGE+再生では MQA 対応ができないためかも知れません。

音質に関しては、イザイの無伴奏ヴァイオリンソナタは、ハーンの弱音から強奏までのボウイングの切れがよくリアルで、ピチカートのパックも繊細です。

Spotify のロスレスと最高音質 320Kbps の比較では、ロスレスに歩があり、Stage+のロスレスは再生できないので比較できませんでした。

一方、バッハのヴァイオリン協奏曲集は Spotify と Stage+は、ともにサウンド設定 48KHzと外部クロック入力 48KHzの設定でロスレスの再生が可能でした。

そこで Spotify と Stage+のロスレスの再生の音質を比較してみましたところ、これまでと違って Stage+に水をあげられていた Spotify がロスレスになったことで Stage+に近接してきました。ともにハーンのさわやかな音色と分離のよいアンサンブルと控えめながら明晰な通奏低音が再生されています。

4. まとめ

イザイのヴァイオリンソナタでは Spotify のロスレス化の確認が PC 受信において可能でしたが、Stage+のロスレスは再生できず、比較ができませんでした。

バッハのヴァイオリン協奏曲集では Spotify と Stage+ともにロスレスの再生が可能であり、音質の比較では、これまでと違って Stage+に水をあげられていた Spotify がロスレスになったことで Stage+に近接してきたことが分かりました。

以上